ノーサイド

北原巌男

エッ、そういう意味なんですか？

隊員の皆さんが、日常何気なく使っている言葉。通常、発言者が念頭に置いている言葉の意味や思いと、その言葉を受け取る人の受け止め方や理解の間に大きな齟齬を生ずることはありません。

もし、発言者の言葉が理解できない方言などであった場合、受け取り側は、その意味を質問すれば足ります。例えば、私のふるさと長野県伊那地方で当たり前に発せられる「でしたい」は、妻のふるさと大分県では「よだきぃ」。いずれも「疲れたなぁ」の意味。お互い意味を知って「あっ、そう」程度の受け止め方ですが、誤解を生ずることはありません。もちろん私は、「でしたい」の方が疲れたときの実感がよりよく出ていると確信していますが、大分出身の隊員の皆さんは、「そりやぁ、よだきいだよ！」でしょう。

むしろ怖いのは、普通の言葉です。地方や使う人によって意味や思いが異なりとんでもない誤解を生じたり、傷ついたり、頭に来たり、人間関係をおかしくさせかねないときがあります。読者の皆さんも、少なからずそんな体験があるのではないでしょうか。私が経験した一例は…

■「むごい」

母「なんつう、むごいことをするだい」　妻「えっ…」　妻に叱られ泣いている幼い孫を抱き上げた母が言った「むごいことをする」。妻はとても落ち込みました。自分を責めていました。しかし、しばらくして、母は「むごい」を単に「可哀そう」の意味に使っていることが分かりました。妻にも笑顔が戻り、今や姑となった妻は、「むごいね」と言いながら孫をあやしています。

■「…しましょうね」

沖縄に赴任し那覇市役所に住所変更届を提出に行きました。多くの隊員の皆さんも経験があると思います。とても親切な窓口の女性でしたが、彼女の発した言葉に、実はカチンと来ました。曰く「ここに書きましょうね」。まるで子供を諭すような言い方。大人に対して失礼じゃないか、と瞬間的に反発の気持ちを抱いたのです。でも、2年間の沖縄在任中、「…しましょうね」と何度も親切に言われる中で、むしろ沖縄の皆さんの温かい気持ちが込められた丁寧な言葉であることに気づいたのです。

心に響く言葉です。

しかし同時に、私自身の経験から、沖縄の皆さんが本土に行かれたときに、この言葉は最も誤解され易い危険を持つ言葉ではないか、あらぬ反発を招きかねない言葉ではないか、理由も分からないままに発した自分がひどく傷つくことがあり得る言葉ではないか、との率直な心配を今も禁じ得ません。くれぐれも気を付けてください。

■「AVO（アボー）」

東ティモールの言葉で、AVOは、おじいさんのこと。私もAVOと呼ばれています。（ニックネームは、AvoKiikOan：じっちゃんあんちゃん）同国に住んでいたとき、人々が「AVOがいる！」と大騒ぎしながら橋の上に詰め掛けて行きました。「さては、おじいさんが川の中で倒れているのでは」と急いで駆けつけました。そこで見たのは、大きな1匹のワニ。東ティモールには、ワニが洋上に止まって出来た国とのワニ伝説があります。人々が、ワニのことをAVOと呼んで、とても大切にしていることを、その時初めて知りました。ちなみに、AVOに食われる事故も起きていますが、東ティモールでは、「食われる人が悪い」ことになっています。

■DAME（ダメ）

東ティモールのDAME（ダメ）は、日本語のダメ、NOではありません。ダメはとても大切な言葉。「平和」を意味します。発音は同じでも、日本語と東ティモールの言葉とでは、全く意味が異なります。早とちりすると大変なことになります。世界には、このような言葉も多いかもしれませんね。

……

北原　巌男（きたはらいわお）
中央大学。70歳。長野県伊那市高遠町出身。元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現（一社）日本東ティモール協会会長